



MIKI
INTERNATIONAL
ASSOCIATION

VOL.40

2010.11

平成22年11月

三木市国際交流協会

「優しさの国 “インドネシア” を体験して」

P 2 / P 3 第 2 回 国際理解講座



「未来の国際人候補生!!!」

こども異文化交流ハロウィンパーティー P 3

「国際交流の達人見習いが大集合!」

P 4 第 3 回 国際理解講座



「相手の立場に立って」

日本語ボランティアのための
スキルアップ講座 P 5

P 6 姉妹都市の掛け橋となって 橋本あゆみ

P 7 2010ことばの教室紹介

P 8 金物まつり報告 & 今後の事業予告

情報発信!!
市役所から
なつじんを繋ぎました!



第2回国際理解講座「インドネシアに魅せられて」 8月29日



I部：ドキュメンタリー映画「マス・エンダン」

制作手記 井上 実由紀

2007年9月、南国の木々茂るバンドン日本人学校のベンチで手にした新聞に、輝くような目を持ったインドネシア青年の写真が載せられていた。それが、エンダンさんと私との出会いだった。

私は孤児院や盲学校での住み込みボランティアや日本人学校の教諭として、インドネシアで計4年間を過ごした。貧しさゆえ夢を掴むことが難しい友人に多く出会った。彼らの純粹さや懸命さ、何より素直な姿を見ていると、世の不平等や理不尽さにやるせない気持ちになった。

エンダンさんにも、叶えたい夢があったのだろう。だからこそ、慣れない日本で文化や習慣の違いに悩みながら、いつかは故郷に帰って夢を実現することを目標に日々の仕事に励んでいたのだろう。しかし、エンダンさんは二度と故郷の土を踏み入れることができなかった。エンダンさんの帰りを待っていた故郷のご家族の方のもとに、突然帰ってきたのは愛する息子の亡骸だったのだ。

「エンダンさんの勇気ある行動」がいずれ風化され、エンダンさんの家族のみが痛みを背負って生きていくことが悔しかった。エンダンさんの勇気ある行動を伝えるドキュメンタリー映画制作を決意した。初めてエンダンさんの故郷に足を踏み入れた夜が忘れられない。エンダンさんがチルボンの町に帰ってこられなかった事実を改めて実感して悲しみが押し寄せてきた。翌朝、ご家族と会った。事故直後でご家族の憔悴した様子を目にしてカメラをむけるのは心苦しかった。

総取材者数34人、総収録時間48時間の記録を55分にまで編集して、映画「マス・エンダン」は完成した。2008年2月にエンダンさんの家族を招いて映画の初上映会をチルボンのエンダンさんの母校である水産高校で開いた。そして、同年8月10日、エンダンさんの1周年と合わせて、事故現場の日向市で上映会を開催した。

“真に優しい人は心の強い人である”と聞いたことがあります。

「困っている人がいたら、助けてあげなさい」これはマス・エンダンさんが幼い頃からお父さんに言われていた言葉です。そして、彼は日本での研修中にそれを実行しました。溺れていた中学生を助けるために海に思わず飛び込んでしまったのです。泳ぎは苦手だったのに…。

熱い思いで作られた映画に理屈抜きで感動したと同時に、周りの人に好かれていた彼がこの若さで亡くなったという事実を歯がゆく思いました。

エンダンさんが亡くなり3年経ち、インドネシア・日本の各地で上映会が開かれ、総来場者数は8,000人を超え、三木市が85回目の上映会場となりました。

両国で映画に共感し、支援してくれた方々の善意で、去年はエンダンさんの出身地（識字率の低い地方）の小学校に机、椅子、本棚を寄贈、今年8月には図書館建設が着工されました。その設計に関わっておられたのは、偶然にも東京で知り合われた三木市出身のKさんでした。今回の映画会に合わせて帰省され、いきさつをお話くださいました。

井上さんは、このように人との繋がりや縁でこの活動が広がっていることを嬉しく思っています。映画観賞後、「本日、人の根底にある感情は国境を越えて大差がないことを実感し、強い希望を感じました。本当にありがとうございました」という言葉で最後のあいさつをされました。

参加者の声

インドネシアに興味を持った

井上さんの思いや強い意思に心を打たれた

多くの支援者が自発的に募金活動を始めたことに愛を感じた

私だったらどうしただろう？と自問した

命の大切さを痛感した

感動した

どうしてエンダンさんにそんな勇気があったのか知りたい



<井上 実由紀>

“百聞は一見にひかず”

SEEING IS BELIEVING

Ⅱ部：アングルン合奏



2010.8.29

ゲスト演奏者

神戸インドネシア友の会・アングルングループ
神戸大学院留学生

アングルンの音階

ド・レ・ミの音階は1. 2. 3…で表わします。
1本指はドの音です。同様に2本の指→レ。
3本の指→ミ。4本の指→ファ。5本の指→ソ。
6本の指→ラ。7本の指→シ。
一音階高いド・8のパーツはありません。
低いドを鳴らします。



オープニングでは、ゲストの演奏による優しい竹の音色が心に染み入りました。参加者はうっとり目を閉じて、聞き入っています。

次は各音階（パーツ）が参加者全員に配られ、指揮者が指を高く上げ、全員がそれに注目します。

いよいよ合奏体験！

最初はごこない様子でしたが、インドネシア留学生の親切な指導の下、次第にコロコロと良い音を出せるようになりました。そして会場のあちこちで「上手ねえ」「あなたもよ」などと褒め合いながら、笑顔の輪が広がりました。

I部の映画も含め3時間近い時間を共有する中で、ゲスト演奏者の方々とも仲良くなれました。そして最後に気持ちを通い合わせた合奏で締めくくることができ、身も心も満たされた一日でした。



ナイスショット！



ミニスパイダーマン & ジャンボスーパーマン

小悪魔&シスター

死神&天使

暗闇の中、「ヒュードロドロド…ギャーッ！」のBGM。こわおもしろい（怖いような、おもしろいような）キャラクターが物陰から出現!!!「ガォー!」「オ〜!」意表をついた出迎えに小学生たちは怖がったり、おもしろがったりしながら逃げ惑いました。

市内英語助手の先生と日本人ボランティア、総勢20人のスタッフの指導の下、小学生たちはハロウィクラフト作り（かぼちゃバッグ・フリスビー）やお化け屋敷での活動を存分に楽しみました。恐ろしい雰囲気の中、さまざまな工夫を凝らした衣装を身に着けた子どもたちのテンションも徐々に上がり、「キャー!」「ワォ!」などと声をあげながらキュートな表情を見せてくれました。

お化け屋敷の中には、絶世の美女—アメリカ人魔女が英語で占いをし、子供たちは熱心に耳を傾けています。言葉がそれ程できなくても、設定があるとコミュニケーションは十分成立し、親しくなれるということがよくわかりました。

異文化体験はこどもの成長過程で重要な役割を果たし、将来に少なからず影響を与えるのではないかと…外国人と夢中でコミュニケーションをとっている子供たちを見ながら思いました。

第3回国際理解講座「国際交流と私」 9月12日 倉橋哲雄氏



Hello everyone. Nice to meet you again. This summer has been very hot. Are you OK? Oh, good, good! Thank you very much for coming here to hear my poor, poor speech. Please take a nap.

こんにちは、またお会いできて光栄です。この夏は非常に暑かったですが、お変わりありませんか。そうですか。よかったです。今日は私のつたない話を聞きにお越しいただき、ありがとうございます。退屈でしたら、どうぞ昼寝してください。

第一声は英語。参加者は戸惑いながらも、ユーモアたっぷりの“クラハシ・ワールド”に引き込まれ、とたんににこやかな雰囲気になりました。現役時代の巧みな話術は、さらにグレードアップしていました。

その後、国際交流協会の様々な事業の懐かしい映像を見ながら、当時の様子を日本語で説明されました。ことばの教室のジョイントミーティング、日本語教室、英語落語、クリスマスパーティ、姉妹都市—アメリカ・バイセリア市とオーストラリア・コロワ市を迎えたときのパーティや市内の工場見学、姫路城見学等々。

 この3月にリタイアし、自由な時間を楽しんでいます。教職を退いた後、12年間は市民、会員の皆様のお陰で過大な人生を送ることができ、非常に感謝しております。

私の人生の記録のようなものをお話しします。終戦後、疎開先でジープに乗った進駐軍（米軍）が生まれて初めて見た外国人でした。1946年に始まったNHKの英会話の番組で流されるテーマソングの“カムカム エブリバディ〜”をよく口ずさみました。その頃には英語はもはや敵国語でなく、理想の国アメリカの言葉と捉えられていました。

中学校の英語教科書の表紙は着飾ったジャックとベティで、アベックで登校する二人の様子がとても羨ましく思われました。（復刻版を回覧）

大学時代、英語の聞き取り練習のため、近くの

教会で牧師に難しい質問をし、困らせたことは今でも反省しています。

教員になってから妻に頼んで費用を捻出してもらい、アメリカで二度、講習を受けました。日本人は文法や語彙については成績優秀なのですが、聞く話すことはテストで下位でした。私も例外でなく、LL教室で40分間、リピートしたり質問に答えたりの経験は拷問のようでしたし、訪れた地元の小中高等学校の生徒の質問攻めに内容が聞き取れず、冷や汗をかいたりしました。

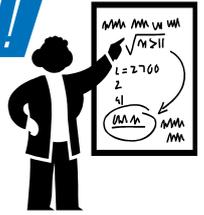


ここ10年ほど、私は三木市国際交流協会のボランティアとして**三木市に住んでいる外国人の日本語学習を手助けしています**。彼らのほとんどは、アジアや中東からの人々です。暮らしのうえで日本語が必要だからという人から、一応しゃべれるが読み書き、日本の文化や習慣まで吸収したいという人まで、国籍も年齢も様々です。ボランティアのみなさんは、学習者を受け持ち、それぞれの進捗レベルや言語に応じてサポートをしています。日本語ボランティアは日本語指導者としての資格を持っていませんが、優しく根気強く教えています。そして、懸命に学ぼうとする人に教えるのは張り合いがあり、疲れるどころか楽しいと感じています。その理由は、私はわれわれ日本人が英語学習で苦難を舐めてきた体験があるからではないかと思います。その昔、日本に来た欧米人にとって一番安易な生き方は、英語教師になることでした。中には、熱心で素晴らしい人もいましたが、市井に住む外国人教師の質は、必ずしも高いものではありませんでした。そして、何よりも欠けていたのは、彼ら自身に必死で外国語を学んだ経験がないことだったと思います。

未来の日本や日本人にとって、英語はどのような位置付けをされるのでしょうか。訥々と日本語を覚えてくれる外国の人を目の前にして想うこの頃です。

三木のみなさま、長い間お世話になりました。

「日本語ボランティアのためのスキルアップ講座」終了!!!



<演習の様子>

6月8日、期待と不安の複雑な面持ちの受講生。そんな緊張の中、講座は始まりました。そして、10月5日、講義・演習・実習の合計45時間に及んだ講座は、修了書を頂き、達成感に満ちた笑顔で終了しました。

第1段階—7回の講義では、日本語講師による学問としての日本語教授法はもちろんのこと、在日外国人の支援活動をされている中学校や他団体の講師のお話を聞きました。そして、ボランティアの根幹を考えさせられるようなケーススタディでは、“ボランティアの意義と役割”を真剣に討論しました。

第2段階—演習では、ペアで作成した教案をもとにモデル学習者（学習暦の短い日本語クラス受講生）に授業を行ないました。学習者の興味を引くよう導入にも工夫を凝らし、ちらしやパンフレット、ハワイのレイや旅行カバンまで持ち込んでの場面設定に、学習者の生き活きとした態度が見られました。学習意欲満々で定時より早く来室し、待ちきれないような様子に支援者も準備でおおわらわでした。初回では全く理解できなかった学習者が最終回では、笑顔で「ありがとう。さようなら。」と言って教室を出たときには、報われた気がして、支援者も「ありがとう。これからも頑張ろうね。」と声を弾ませました。

第3段階—既習事項を「ことばの教室日本語クラス」の実習に活かしました。2学期の開始にあたり、既習歴や目的に応じて支援者と学習者のマッチングをし、今後の学習の方針を決めました。

YWCA 日本語講師 斎藤 明子

「学習者の側に立って考えよう」という提案に、ボランティアの皆さんが真剣に熱心に応えてくださって、本当に感激でした。そして今、共に教室を盛り立てていこうという輪が広がりつつあります。心からエールを送ります。

受講者の感想

- 「目からウロコの連続でした!!!」
- 「教え方が変わった」
- 「教案作成、授業の進め方がわかった」
- 「事前準備の必要性を認識した」
- 「自身の日本語能力を知る機会になった」
- 「テキストの役割はあくまでも確認、
定着だと知った」
- 「学習者と楽しみながら共に成長したい」
- 「もう少し若ければ、
日本語講師の資格を取りたいと思った」
- 「学習者との心の交流があるから、
会話が成立するとわかった」
- 「ことばの教室日本語クラスの体制が整った」
- 「学習者に応じた対話を重視したい」
- 「みんなの日本語II(中級)ペースの講座を
開講してほしい」
- 「真のボランティア精神が芽生えた」

もし、あなたが言葉の全くわからない外国で生活することになったら…と仮定してみてください。文化・習慣の違いに戸惑い、言葉が通じない心細さを想像してみてください。それらを心に留めながら、在日外国人に接することが、日本語ボランティアの原点ではないでしょうか。

この講座で支援者間の連帯は強まり、今まで以上に熱心に取り組むきっかけになりました。その姿勢は学習者にも伝わり、日本語クラスがますます充実するであろうと大いに期待しています。

三木市姉妹都市コロワ市滞在
「ありがとう！」感謝の3週間
橋本あゆみ



イアンさん

三木のみなさん！
お待ちしております！



〈2009年度三木市訪問団の学生とコロワ高校で〉



〈羊の毛刈り体験〉

この夏、私は三木市の姉妹都市であるオーストラリアのコロワ市にホームステイに行きました。当初の計画ではゴールドコーストでの語学研修だったのですが、諸事情で行けなくなってしまいました。そこで、国際交流協会に相談したところ、交流のある姉妹都市の方々が快く受け入れて下さるということになりました。

一人で海外に行くことが全く初めてだったので大変不安だったのですが、出国前にビザを取るの知らずに空港内を走り回ったこと以外は、乗り継ぎなどではトラブルもなくコロワに着くことができました。

オーストラリアと以前滞在したアメリカはほとんど同じだろうという私の予想は、見事にはずれました。というのも、車の通行も温度の表示もアメリカでなく日本と同様でした。

何事にも1回は挑戦してみようと思っていたので、*Vegemite や *Fish&Chipsを食べたり、羊の毛刈り、牛のえさやりなどいろんなことを体験しました。受け入れのお礼に手巻きずしを作ると、とても喜んで食べてくれました。ホストファミリー

ーや町の人はとてもフレンドリーで温かく、大変居心地がよかったです。コロワ高校にも通わせてもらい、日本語の授業で日本文化(習字や折り紙)やひらがななどを教えるお手伝いをしました。それによって自国についての知識のなさに気づかされ、帰国後の課題を見つけることも出来ました。

帰るとき、1軒目のホストマザーが「あなたの場所はここにあるから、いつでも帰ってきていいよ」と言ってくれた時は本当の家族になれたみたいで、嬉しくて泣いてしまいそうでした。

わずか3週間でしたが、一日一日はとても充実していました。来年の春、機会があればぜひもう一度行きたいと思っています。皆さまの善意でこの3週間で有意義に過ごすことができました。出会ったすべての人に心から“ありがとう”と感謝の言葉を伝えたいです。今回の私のアドベンチャーに関わってくださったすべての皆さまにお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

- *Vegemite : ベジマイト。
パンに塗る野菜エキスのペースト。
- *Fish&Chips : フィッシュアンドチップス。
魚フライと棒型ポテトフライの組み合わせのフード。

I went to Corowa which is a sister city of Miki this summer. It was my first visit to Australia and it was also my first trip outside of Japan alone.

Australia was totally different from what I thought before I went there. I thought Australia is mostly like U.S but it was not like that. Of course the pronunciation was different but they drive the cars on left side like Japan. One of what surprised me was that the students wear school uniform and the school system was similar to Japan. I had a really good time there. I would like to go back in February or March!

2010 ことばの教室紹介 (11クラス/150名)

韓国語・中国語は入門クラスが出来ました！



韓国語入門
佐野潤貞先生 火曜夜



中国語入門
肖威先生 木曜夜



韓国語初級
車 瑛先生 火曜夜



中国語初級
山口玉花先生 木曜夜



スペイン語
中田アルフレド先生 金曜夜



英語実用
ローレン先生 月曜夜



英語中級
ジョー先生 火曜夜



英語初級A
ケリー先生 水曜夜



英語初級B
新田俊子先生 木曜午前



英語表現活動
ゲスト講師他 金曜午前



日本語
ボランティア支援者 月曜夜

3月6日のジョイント・ミーティングへのご協力をよろしくお願いします！

金物まつり「国際交流チャリティーバザー大盛況!!!」

「いらっしゃい、いらっしゃい!」11月6日・7日は晴天に恵まれ、多くの買い物客でにぎわいました。外国人ボランティアスタッフの明るい声かけに財布の紐もゆるんだようです。

373,477 円!!!

Thank you for your warm heart.

金物まつり協賛「国際交流チャリティーバザー」には、物品提供や販売のお手伝いなどいろいろとご協力いただきありがとうございました。

お陰様で373,477円の浄財を集めることができました。
国連関係や国境なき医師団、その他団体に寄付させていただきます。



Events & Meetings 平成22年12月~平成23年3月

月・日(曜日)	時間	場所	事業
12月19日(日)	13:00	みっきいホール	2010クリスマスパーティー in MIKI
1月29日(土)	14:00	三木山森林公園	COOL "MIKI" & 英語落語
2月20日(日)	13:00	教育センター	第4回国際理解講座「マダガスカルってどんなところ?」
3月6日(日)	10:00	教育センター	2010年度ことばの教室「ジョイントミーティング」

ダイアン吉日 来る!

2011年1月29日14:00・三木山森林公園

あの若達者なダイアン吉日&外国人市民
初コラボレーションin日本語!

I部は外国人の話聞けるまたとないチャンスです。
II部の英語落語は抱腹絶倒間違いなし!

2010 クリスマスパーティー in MIKI 12/19 13:00~みっきいホール

木村FAMILY&TETSUYAによる豪華なエンターテインメント。
着物姿の外国人や民族衣装の日本人。思い思いの衣装に身を包み、
楽しいクリスマスを過ごしましょう。
プレゼントの当たるお楽しみもあります。

編集あとがき



猛暑の後のすがすがしい秋晴れを満喫しています。会員の皆様には御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は様々な活動に参加していただき、ありがとうございます。お陰様で事業は順調に行なわれています。初の試み“日本語ボランティアのためのスキルアップ講座”では、新たに支援者が誕生しました。12月にはクリスマスパーティー、1月には英語落語と市内在住の外国人発表のジョイントショーを行います。会員の皆様のご参加をお待ちしています。

編集・発行

三木市国際交流協会
Miki International Association

〒673-0492 三木市上の丸町10-30 (市民ふれあい部 市民協働課内)

TEL (0794) 89-2318

FAX (0794) 82-9755

[E-mail] kokusai@city.miki.hyogo.jp

[ホームページ] <http://www.city.miki.hyogo.jp/>